

なきごえ



1984

12

大阪市
天王寺動物園協会



小森 厚

1984年3月31日で東京都恩賜上野動物園飼育課長を辞職したものの、引き続いて(社)日本動物園水族館協会事務局長として、動物園暮らしが続いています。動物園人生37年以上となりました。いろいろとマスコミ関係

で、動物園に入った動機を聞かれますが、思い返してみても、なかなか「動機」らしいものを見つけることができません。私が上野動物園に入ったのは戦後の混乱期で、食糧事情の厳しい時代でしたが、殺伐とした当時の世間から逃がれて動物園という夢のある世界を求めたのではないかと考えられます。

子供の頃を思いめぐらしても、動物は好きではありませんでしたが、イヌ以外には飼ったことはなく、むしろカエルやヘビをつかまえては皮を剥ぐような残酷な遊びを楽しんでいることが多かったし、どちらかといえば、船や飛行機などメカニックなものの方に興味を持っていたものです。ただ、私が、生物界に興味を引かれるようになったのは、1つの“事件”であったことを、今でもはっきりおぼえています。

中学の4年生ぐらいの時だったと思います。夏の暑い日、農家での勤労奉仕(今では死語ですね)で汗を流し、ひとときの休憩を大きな木の根元で友人と並んで座っていたときのことでした。突然、目の前の地面に、大きなクモが、ポトリと落ちてきました。と、ちっちゃなハチ——今、思えば獵人蜂、すなわち寄生蜂の1種でしょう——が1匹、地面を這うクモの背中にとまったのです。クモは、あおむけ

にひっくりかえって、ハチを己れの背中の下に押しかくすような形となりました。やがてクモは、そのままの姿勢でビクビクとふるえてから、動かなくなってしまいました。すると、クモの体の下から、さっきの小さなハチが這い出してきた、こんどは、自分よりもはるかに大きなクモを、ひっぱりはじめたのです。どこへ? 私が体を乗りだしたとたん、隣にいた友人は、パッと足を出し、クモとハチを靴で踏みつぶしてしまったのです。

私は、映画を見ていて、そのクライマックスに、突然フィルムが切れてしまったような思いがしました。あの続きはどうなったのだろうか? どうしても、あの続きの物語りを知りたいものだ、という思いに駆られました。そこで、同級生で「動物きちがい」のあだなを持った友人(この友人は獣医を志したのですが、若くして亡くなっています)に尋ねてみました。友人は、私に「ホイラー著・昆虫の社会生活」という一冊の本を貸してくれました。トックリバチ、ベッコウバチから、軍隊アリ、ハキリアリと、ハチやアリの生活は、私にとって驚きの連続でした。毎日踏みあるいている地べたの下にも、こんな生きものが、こんな生活をしているのか、と私は、今まで知らなかった世界にどんどん引きこまれていったのです。

その後、私は、海軍の予科練習生となり、戦争が終って疎開先の長崎から、いちばんはじめに手紙を書いたのが、東京の、かの動物きちがいの友人にあてたものです。そして、その友人のすすめもあって、上野動物園の古賀園長さんに手紙を書き、やがてそれが、私の行き先を決めるまでになったのです。ファーブルをひきずりこんだ、あの不思議な世界が、私をも動物園の世界に連れこんでくれたのです。

(日本動物園水族館協会事務局長)

なきごえ12月号もくじ

動物と私	2
ぼくの名前は“さとしジュニア”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
タスマニアデビルを飼育して	6・7
天王寺の歴史をさぐる⑦(ゾウの歴史)	8・9
キーパーズ・アイ	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“タスマニアデビル”

10月26日入園した4頭のタスマニアデビルはすっかり新しい環境にも慣れた様子で昼間もよく動いています。でも少し疲れるとこうして4頭集って昼寝をします。

(撮影：長瀬 健二郎)



ぼくの名前は“さとしジュニア”

ぼくは、今年10月3日に生まれたマントヒビです。生後10日目に父親から少々手荒い扱いを受け入院することになり、そのまま人工哺育されることになりました。マントヒビの人工哺育は、ぼくの父親が最後で、14年ぶりだということです。今、離乳中です。写真は生後44日目

(撮影・文：森本 委利)



子グマのようなカワイイ顔つきです。

動物園グラフ

“日本に初お目見え、 タスマニアデビル”

10月26日、日本に初めてお目見えした
タスマニアデビルも入園1ヶ月がたちました。
タスマニアの悪魔の異名をとる、この動物
の魅力をさぐってみました。

(撮影：なきごえ編集部)



4頭ともすっかり仲よくなりました。



おっと、はずかしいスタイルで失礼しました。

10・11月の動物園日記

- 10/10. 動物園職員写真コンクール優秀作品展が本日より始まりました。
- 10/12. マントヒヒの子が雄親による荒い扱いのため外傷を負いましたが、雄親はその子を手離そうとしないため、麻酔してその子を取り上げ治療しました。
- 10/13. 昨日取り上げたマントヒヒの子を以後人工哺育によって育てることにしました。
- 10/14. 秋の動物園まつりが始まりました。
- 10/15. チュウゴクオオカミの雄“美美”の食欲がほとんどないので、治療を始めました。

- 10/18. ブラックバックが1頭(雌)生まれました。
- 10/20. チュウゴクオオカミの“美美”は点滴治療中です。
- 10/21. パーバリーシープの雄(以前のボス)が右目をほかの個体に突かれ出血があるため、すぐに治療をおこないました。
- 10/22. 7月に保護したカルガモを放鳥しました。
- 10/23. アカカンガルーの雌“コリン”の育児のうちの子供がいるのを確認しました。
- 10/24. シュバシコウ2羽を久留米鳥類園へ寄贈しました。
- 10/25. モウコガゼルの雄の下あごからの出血が著しいため治療を行ないました。



のんびりと日なたぼっこ



あくびを連発します。 とても大きく開きます。



餌のとりあい、負けるものか。



水の中もへいちゃら、じゃぶじゃぶ

- 10/26. 治療のかいもなく、モウコガゼルの雄が死亡しました。
タスマニアデビル4頭2つがい、オーストラリア・タスマニア州より送られてきました。
- 10/27. タスマニアデビル舎寝室にデビル4頭を移し、さっそく検疫に入りました。
- 10/28. キーウイ3羽の体重測定を行ないました。
翼を骨折したカルガモを1羽保護しました。
- 10/29. タスマニアデビルは、輸送用オリから出したとき(10/27)、ペア間でかなりの闘争がありましたが、現在は一緒に寝そべるようになりました。

- 10/30. オランウータンの雄“ブル”が風邪のためか食欲がなくなってきたため治療をはじめました。
- 11/1. キーウイ舎の暖房をはじめました。
- 11/1. タスマニアデビルを初めて運動場に出し、夜間観察も実施しました。
- 11/2. タスマニアデビルを本日から一般公開することになり、そのセレモニーが開催されました。
- 11/6. クマタカとカケスの関節鏡による性別チェックを行ないました。
- 11/8. 当園に23年間いたヨウスコウワニが出血性腸炎で死亡しました。

タスマニアデビルを飼育して

英名 *Tasmanian Devil*

学名 *Sarcophilus harrisi*

§ はじめに

オーストラリアのタスマニア州より寄贈される事になった4頭のタスマニアデビルが、10月26日夜、当園にやって来ました。動物園では、タスマニアデビルのためにマレーバク舎横のオグロワラビー舎の放飼場、寝室を改装して用意しました。獐猛で木登りもうまく、放飼場では土中に穴を掘るといふ脱走の名人？とうわさの高いタスマニアデビルのため、



タスマニアデビル放飼場

色々の脱出防止の工夫をこらして完成しました。しかしまだどこかに抜け道があるのではないかと心配しましたが、とにかくタスマニアデビルが入園してから様子を見ようということでタスマニアデビルの到着を待ち受けていたわけです。

§ 悪魔の来日

10月25日オーストラリアを出発し、26日午後、大阪空港に到着、動物園には5時40分頃にやって来ました。ジュラルミンのケージが2個、各ケージに2頭が入っていましたが、なにしろ非常に噛む力が強いといわれているだけに、ケージには歯がからないように、わずかに5㎜の穴が10数ヶ所開けてあるだけで中がまったく見えない状態でした。この日は、タスマニアデビルの健康状態だけを確認し、長旅の疲れもあるだろうと思い、送られてきたケージのまま一時収容舎におき、翌日タスマニアデビル舎に移すことになりました。

翌27日、新しくなった2ヶ所の寝室にオス、メス一番いづつを収容しましたが、2頭が顔を合わすたびにうなり声を発し、牙を出して攻撃をします。又となりの寝室に入っているタスマニアデビルとも間仕切の扉の所で同じようにうなり声を出し、噛み合いをします。こんなにケンカをするのではやはり一頭ずつ別々に飼育しないといけないのではと心配をしました。しかし小さい方のペアは1時間位で



屋内収容室

なくなくなり、寝てしまいました。しかしもう一組の方はケンカがなかなかおさまらないため1頭に入れて見合いをさせようということになりました。一晚、オス1頭だけを檻に入れて様子を見ました。翌日、その檻では水も飲めないで、もう一度一緒にしてみましたが、やはり昨日と同様、うなり声を出して口を大きく開け噛み合いをします。でもよく見ていると、口を開け牙を出しているものの、本当に噛んでいるようではなく、これには何かの意味があるのではないかと思うようになりました。順位制はあるがテリトリー（縄張り）がないというタスマニアデビルですので、仲間同士の順位の設定か、あるいは自分の一番よい場所のとりあい、それともタスマニアデビル同士のあいさつ行動なのか、はっきりとはわからないものの、それが攻撃ディスプレイといわれる行動の一種ではないかと考えました。初めとても仲の悪そうに見えた大きい方のペアもその夜までには仲良くよりそって寝てしまいました。ただ起きて顔を合わせるとうなり声を出し、口を大きく開け噛み合うまねをします。最初の心配も、これがタスマニアデビルの行動の一種ではないかと思うと安心して見ていられるようになりました。

§ ねぼすけのタスマニアデビル



仲よく寄りそって寝るデビル

名前とはうらはらに、熊の子のようなどともかわいらしい顔？をしているタスマニアデビルは、起き

ている時はケンカのようなうなり声をだしてばかりいますが、それ以外は寝てばかりです。寝る時は別々の時もありますが、たいていは2頭寄りそい、仲良く寝ています。夜光性であるため昼間は当然寝てばかりですが、夜見廻っても寝ている事が多いようで、起きて活動している時間は大変少ない様に思います。餌は夕方に給餌するのですが、朝までには食べ散らかしており、寝室に敷いてあるワラも散乱しています。また水飲の水も汚れており、夜間のある時間帯には活動しているのだらうと思われま

§ 昼行性？のタスマニアデビル

11月2日午前10時よりタスマニアデビル贈呈式が行われ、その後、一般公開されました。寝室ではあれだけ寝ているタスマニアデビルなので、放飼場に出しても隅っこで寝てばかりいるのではと思っていましたが、最初はどこかかくれる所をさがすかのようにチョロチョロとよく歩きまわりました。なれるに従い放飼場内にある木の下とか、木の洞の中に入って寝るようにもなりました。午前中はわりとよく走ったり、歩きまわったり、堀の下に降りたりとよく動きまわり、時には池の中に入ってジャブジャブと歩き回ったりします。タスマニアデビルは後足がガニ股で短足のためか、身体を大きく左右にゆするような独特の歩き方をします。

§ 悪魔のなき声

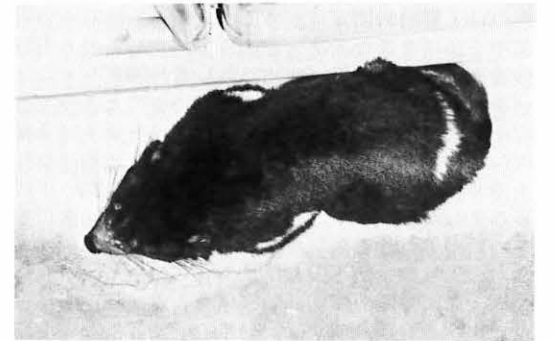


とても大きく口を開けます

タスマニアデビルの鳴き声は今までに何種類かの声を確認しています。シューシューと吹くような声、ワンワンと犬の様な鳴声、シワがれた声でギャーギャーと鳴く声。シューシューという声とギャーという声は、攻撃とか威嚇の時に出します。ギャーという声は、短い時もありますが、長く続けて鳴く時もあります。ギャーと鳴きながら口を大きく開け、そのままあくびをすることがよくあります。あくびはよくしますが、これは不安やおびえた時にするようです。

§ タスマニアデビルの食事

オーストラリアでは、2日に1度あるいは3日に1度絶食日を設けているようですが、当園ではまだ1頭がどれ位の餌を食べるかわからないため、いまのところ毎日、餌を与えています。今までにニワトリ、ウサギ、モルモット、アジ(魚)、馬肉、ヒヨコ、ドッグフード、牛のあばら骨を与えました。アジとモルモットはあまり食べません。ドッグフードも固いものは食べますが、やわらかいものは食べません。餌は羽毛や毛、内臓もそのまま与えています。羽毛や毛はそのままいっしょに食べてしまいますがこれは胃腸の動きをよくするために必要だとのことでした。タスマニアデビルは固いものが好きらしく、普通の肉食獣にみられるように内臓を先に食べることはせず、骨のついた部分を好んで食べます。手羽先や、ふとももの骨の付いた部分を、コリコリとおいしそうな音をたてて食べます。給餌量は1頭約500g位で鶏肉と馬肉を中心に給与しています。今のと



腋と腰の白斑が目印です

ころどの餌が好物なのかよくわかりません。日によってその嗜好が変化します。野生では弱った動物や病気の動物を殺して食べたり、また死肉も食べるようで一種の掃除屋になっているそうです。

§ 最後に

当園に来てまだ飼育日数が浅く、習性や各個体の性格などもまだわかりません。しかしこれからの観察によって得られる記録を漸次「なきごえ」に誌上発表していきたいと思っております。

顔やしぐさを見ていると、なぜデビルというような名前がついたのか不思議に思う程、愛らしくかわいい動物です。先頃一般公募で名前が決定しました。一番大きいオス(白い所が少ない)が「クロペー」そのペアのメスが「スー」、小さいオスが「ダイスケ」、そのペアのメスが「ミミ」です。これから皆様のアイドルとしてかわいがって下さい。

(飼育課：野口秀高)

天王寺の歴史をさぐる ⑦ 〈ゾウの歴史〉

動物園のスーパースターと言えは昔からゾウが筆頭にあげられます。人気動物アンケートを行ってもゾウが断然第1位です。その人気の秘密は何と言ってもあの大きな体に小さい目、ゆったりとした動き、子供達は大きなゾウの姿を見て何とはなしに安心したのもしく思えて信頼と愛着を寄せるのでしょう。さてさて、それでは当園のゾウについてその歴史物語をひもといてみましょう。

日本への初渡来

ゾウが初めて日本の国土を踏んだのは、今から576年前の1408年、室町時代、後小松天皇の応永15年で、このことは明治43年神宮司行「古事類苑動物部」の中の「若狭国守護職次第」に「応永15年6月22日、若狭国に南蛮船が付き将軍足利義持に黒象1頭、馬、孔雀、オウムその他を献じた」と記されています。これが日本で生きたゾウが初めて渡来した記録となっています。このあと安土桃山時代に3回、江戸時代に2回の計5回が明治時代までに渡来しております。

日本の近代動物園への初登壇

我国で近代動物園として体裁を整え一般公開されたのは上野動物園がはじめてですが、動物園という名称を掲げたなかでゾウを初めて飼育したのも上野動物園です。1888年(明治21年)5月23日シャム国(タイ国)皇帝から8才のメスと15才のオスの1番が上野動物園に贈られました。このうちメスは5年後に死亡しましたがオスは1923年(大正12年)12月まで35年飼育され、その後、浅草花屋敷に払い下げられました。払い下げの時時点でそのゾウは50才になるわけで中々長生きしたということになります。

天王寺動物園へのお目見え

天王寺動物園の開園は1915年(大正4年)1月1日ですが、当園の前身は1884年(明治17年)に増開設された府立大阪博物館附属動物檻ですが、当時ゾウはまだ飼育されていなかったようです。詳しい記録は残っておりませんが、1903年(明治36年)3月に開催された第5回内国勧業博覧会の余興動物一覧の中にゾウの名がみられ、ここで飼育展示された動物のいくつかがのちに府立大阪博物館に買いとられたと聞きますので、これ以後にゾウが飼育展示されていたかも知れません。当園にゾウのはっきりした記録が残っているのは1914年(大正3年)6月に府立大阪博物館附属動物檻が大阪府から大阪市に移管された頃からで附属動物檻ではオス・メス2頭のゾウが飼われており、オスは天王寺動物園にメスは東京浅草花屋敷に譲られました。

オスゾウの宿替についてはたのしいエピソードがあり大阪府から譲られたゾウはサーカスの扱下げだったらしく愛称を団平というオスゾウで1914年12月に移転先の新しい動物園が出来上り、小中獣、鳥、爬虫類が牛車や大八車、馬力等で順次運搬され、いよいよゾウという段になりましたが当時、このゾウを運ぶトラックなど十分な輸送手段がなく、博物館のある東区本町橋詰町から松屋町筋をへて新居の天王寺村までの3.3kmの道のりを夜間、徒歩で運び

込むこととなりました。当時の松屋町筋は幅員も3間(約5.4m)で狭く両側は菓子や玩具等の問屋が軒をならね、又、軒先は石油ランプの街灯がとりつけてありゾウが真中を歩かず体をひねれば低い町家の軒をこわしたり、石油ランプで火災も……となりかねない状態だったので、それにもましてゾウは慎重な動物のため



府立大阪博物館附属動物檻から引継いだオスゾウ、「団平」 大正年間 仲々歩を進めず非常に難渋したそうです。道中をわざわざ夜間を選んだにもかかわらず、ゾウの街頭行進は前代未聞とばかり大勢の人がつめかけ、これが又、ゾウの遅々とした歩に輪をかけることとなり、附添の飼育係もはたと困り、団平の昔を思い出させるためサーカス時代の木遣音頭で囃したて10時間もかかって夜が白々と明ける頃、新居の動物園についたそうです。この団平というオスゾウは別名コロコロナとかコロナ君と呼ばれ多くの催物に参加しましたが、1926年(大正15年)10月12日に死亡しました。そのあと同年11月に来園する常盤は奇しくも府立大阪博物館に団平と一緒に飼われていたメスゾウで団平の死後、古巣の大阪へ戻りとなったわけです。

2頭のゾウは当時日本に20台しかないという大型の貨車に乗せられ、ランプールは6月3日の真夜中に天王寺駅へ、ワンディーは見分する中央ステッキの人、初代園長林佐市氏。左側カメラの人、元上野動物園長古賀忠道氏。S.10.6.3

ランプールのこと

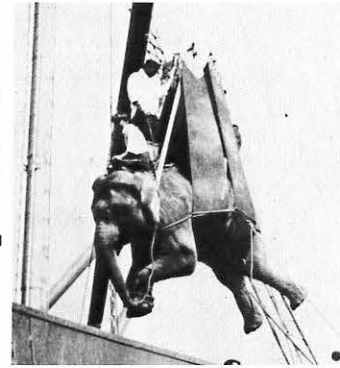
初代、団平のあと1926年(大正15年)11月11日に東京浅草花屋敷合資会社から「常盤」を譲りうけました。このゾウはサーカスの中で「カメ」と呼ばれ4才の時分から7年間、有田サーカス団で飼育調教され、譲受後は1942年(昭和17年)1月20日に死亡するまで16年間、当園の花形として曲芸、催物、触察、慰問などに活躍しました。これと合前後して登場するのがランプールです。



左「常盤」右「ランプール」 初代 林佐市園長 昭和10年代前半

ランプールは1935年(昭和10年)6月3日に上野動物園に贈られるワンディーと共に神戸港に到着しました。ランプールとワンディーは前年にタイ国の少年団から少年団日本連盟に贈られる約束に基づいて1935年春に首都バンコクより400km奥地のピサヌロークから徒歩で鉄道網のない山野、峡谷をへて長い日時を費やしてバンコクに到着しました。バンコクからは大阪商船の「バグビア丸」に積み込まれ、2名のゾウ使いと3名の現地人附添いも乗船して一

緒に日本にやってきました。出発前に体の大きい25才のメスは上野動物園に、体のやや小さい20才のメスは天王寺動物園へと決まり、それぞれが「ワンディー」、「ランプール」となったわけです。この愛称も当時の新聞や記録ではタイ語をそのまま聞きかじりで文字にするものから「ルンブル」、「ランブーン」とか「バンジー」、「バンレイ」、「ワンリー」といろいろな呼び方がされており未だに本音なのか定かではありません。



神戸港についたバグビア丸から積降される「ランプール」 S.10.6.3

2頭のゾウは当時日本に20台しかないという大型の貨車に乗せられ、ランプールは6月3日の真夜中に天王寺駅へ、ワンディーを見分する中央ステッキの人、初代園長林佐市氏。左側カメラの人、元上野動物園長古賀忠道氏。S.10.6.3



神戸港についた「ランプール」と「ワンディー」を見分する中央ステッキの人、初代園長林佐市氏。左側カメラの人、元上野動物園長古賀忠道氏。S.10.6.3

園に到着しました。以来ランプールは1942年(昭和17年)3月2日に胃腸疾患で死亡するまで、チンパンジーの名優リタ嬢と共に当園の看板スターの座を守り、アイドルとなりました。その後、1943年(昭和18年)4月26日に甲子園阪神パークからメスゾウ1頭を預りましたがこれも同年6月24日に死亡し、その後、1950年(昭和25年)4月にタイからゾウが入るまで7年間、天王寺動物園は「ゾウのいない動物園」の時代を経験したのでした。



シャム少年団から少年団日本連盟大阪地方連盟に贈られた「ランプール」の歓迎会 S.10.6.9

戦時を生残ったゾウは全国では名古屋東山動物園のたった2頭のみでした。平和な時代がやってきて

当園のゾウの戦後史

戦時を生残ったゾウは全国では名古屋東山動物園のたった2頭のみでした。平和な時代がやってきて

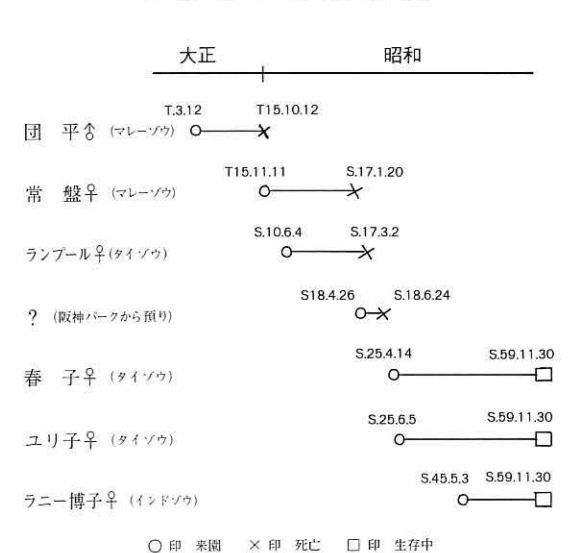
子供達はゾウがみたい、生きている大きなゾウがみたいと全国でゾウの誘致運動が起りました。生残った名古屋東山動物園のゾウには近隣各県からゾウ特別列車が走り、いち早く1949年(昭和24年)9月にタイから花子が、インドからインディラが上野動物園にやってきて、インディラは移動動物園とともに中部、東北、北海道地方を回りました。天王寺動物園では、1950年(昭和25年)4月14日にタイからメスゾウ「春子」がそして6月5日に同じくメスゾウ「ユリ子」が来園しました。春子は大阪の貿易商北庄司氏がタイで買付け、贈ってくれたもので「関西丸」に積み込まれ、大阪港住友岸壁に4月14日につきました。当時、現地との連絡は電報が主で、子供のゾウといっても大きさがわかりません、方々をさがしてようやく大型のトレーラーを1台借り受け、住友岸壁で待ち受けました。そして、クレーンで船倉から釣り上げられたゾウは何と500kg足らずの子ゾウでした。しかし、動物園につくまでの沿道は小旗を持った歓迎の人達一杯で、夕方にもかかわらず動物園の入口も大勢の人が待ちかまえておりました。翌4月15日の公開日そして5月5日の子供の日には人・人・人で1日入園数の最高の記録を作りそれは今のパンダの人気をしのぐほどでありました。このようにして平和な時代がつづきこのあと1970年(昭和45年)5月3日に大阪万国博覧会のインドナショナルデーを記念して6ヶ月令のラニー博士がインド政府から贈られ、計3頭となりました。3頭の保育数は戦前戦後を通じてはじめての大世帯で、今も元気でお客様に愛嬌をふりまっています。

(飼育課：中川 哲 男)

参考文献

- 動物2600年史(昭和16年大阪市立動物園発行)
- 動物渡来物語(高島春雄著)
- 大阪の動物園(上田長太郎著)
- 上野動物園100年史(昭和57年東京都発行)

当園のゾウの系図



キーパーズ・アイ

* 個 体 識 別

「わぁ ペンギンの翼に変なもんついてる」、「いや、ヤギがイヤリングしてるよ」、最近このような話をよく耳にします。一般の入園者の人から見れば、とても奇妙に見えるかも知れませんが、この標識はとても重要な役割をはたしているのです。動物園では、動物を飼育してみせるというだけの施設ではなく、動物の行動や習性、群れを構成する動物の社会構造や順位など様々なデータを記録し、野生動物を保護するための重要な役目をはたしています。貴重な記録をとるために、まず個体の識別をする訳ですが、頭数が少ないとか、個体の特長がはっきりしている動物以外の場合、目じるしとして、鳥の場合には足環や翼帯、哺乳類にはイヤタッグ、サル山のニホンザルにはイレズミ（こわい人がしているものではありません）などで個体を識別する訳です。



(飼育課：農本 武志)
(イラスト：山下奉之)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

* 光 と 影

全国がコアラの来日で、コアラフィーバーしている中、当園にはタスマニアデビルが、オーストラリアのタスマニア州政府から贈られました。しかし、コアラのような過熱気味の人気はありません。名前がタスマニアの悪魔という、あまりありがたないこと、肉食の有袋類であることなどという理由で少し損をしているようですが、コアラに負けず、仲々可愛い顔をしています。11月2日に一般公開されて以来入園者の人気を集めていますが、タスマニアデビルを初めて見た人の反応は様々で、「クマの仔みたい!」「ぬいぐるみみたい」「コアラより可愛いネ」など、うれしくなるような反応もありますが、また「うあすごい歯とるなあ～あんなに咬まれたらこわいで」「なんや、コアラの方が可愛いワ……」と、デビルが聞いたら「コラァすまへん」とでも言わねばならないようなシビアな反応もあります。光り輝くコアラの影になってしまったようなデビル



達ですが、両者共生息数が激減し、絶滅の危機にさらされた悲しい過去の持主です。共にあたたかい目で見守ってあげたいものです。

(飼育課：農本 武志) (イラスト：荻野幸司)

1984年 目次

なぎごえ 232 12月号付録

第20巻

通刊 221～232号

表 紙

写真撮影

ヌートリア	(1月号) 大川光雄	キーウィ	(7月号) 宮下 実
アフリカタテガミヤマアラスシ	(2月号) 大川光雄	モモイロペリカン	(8月号) 中川 哲男
トキイロコンドル	(3月号) 伊東重朗	ゴリラ	(9月号) 大野 尊信
ピューマ	(4月号) 長瀬健二郎	ニホンツキノワグマ	(10月号) 大川光雄
バーバリーシープ	(5月号) 森本 委利	ライオン	(11月号) 宮下 実
ヘラサギ	(6月号) 大野 尊信	タスマニアデビル	(12月号) 長瀬健二郎

動物と私

P 2

	(1月号) ——	ルポライター	(7月号) 石田尾光利
栗林公園動物園長	(2月号) 香川 一水	ナチュラリスト	(8月号) 中川 宗孝
おびひろ動物園長	(3月号) 中村 悟	環境庁鳥獣保護課	(9月号) 鳥居敏男
姫路市立水族館長	(4月号) 内田 至	前広島市安佐動物公園長	(10月号) 小原 二郎
豊岡コウノトリ飼育場	(5月号) 松島興治郎	鴨川シーワールド水族館長	(11月号) 鳥羽山照夫
甲南大学・講師	(6月号) 平松 道夫	日本動物園水族館協会事務局長	(12月号) 小森 厚

お目見え動物

P 3

写真撮影

人工哺育で育つトラの赤ちゃん	(1月号) 大野 尊信	ベニジュケイ、自然ふ化に成功	(7月号) 兼坂 雅浩
やっと顔見世、ハリモグラ	(2月号) 野口 秀高	袋の中はもう一杯	(8月号) 宮下 実
アミメキリンの赤ちゃん誕生	(3月号) 農本 武志	ひさびさのエランド誕生	(9月号) 榊原 安昭
こんなに大きくなりました	(4月号) 宮下 実	相次ぐラマの出生	(10月号) 森本 委利
春だ、跳びあがれ	(5月号) 大野 尊信	日本へ初お目見え、ヨロシクネ	(11月号) 農本 武志
リュウキュウイノシシのウリ坊	(6月号) 長瀬健二郎	ほくの名前は「さとしジュニア」	(12月号) 森本 委利

動物園グラフ

P 4・5

写真撮影

ネズミのおもちゃ展	(1月号) 吉田平七郎	キーウィ	(7月号) 大川光雄
天王寺動物園のげっ歯類	(2月号) 宮下 実	満1才を迎えたサイ太	(8月号) 編集部
凍てつく日	(3月号) 中川 哲男	サマースクール特集	(9月号) "
脱出猛獣捕獲訓練	(4月号) 編集部	食欲の秋	(10月号) 森本 委利 長瀬健二郎
新しくなったキジ舎	(5月号) 中川 哲男	天王寺動物園の長寿動物	(11月号) 中川 哲男
動物園はベビーラッシュ	(6月号) 農本 武志	日本に初お目見え、タスマニアデビル	(12月号) 編集部

特別寄稿

ネズミの話題	(1月号)	6~7P	吉田平七郎 (おもちゃの動物園長)
日本のノズミ	(1月号)	8~9P	恩地 実 (甲南高等学校教諭)
野鳥の密猟と密売	(5月号)	6~7P	水野五萬男 (日本野鳥の会大阪支部幹事)
里山の動物	(6月号)	8~9P	木下 陸 男 (大阪自然環境保全協会理事)
北イエメンからの便り	(8月号)	6~7P	大村 寿 郎 (国際協力事業団出向)
ガラパゴスの爬虫類	(8月号)	8~10P	ドナルド・ブラッドショー (日本野鳥の会々員)
白山の動物	(9月号)	6~7P	水野 昭 憲 (石川県白山自然保護センター)
マウンテンゴリラの危機	(10月号)	6~7P	山 極 寿 一 (日本モンキーセンター研究員)

連載記事

天王寺の動物たち	㉙(2月号)6~7P	長瀬健二郎	キーパーズ・アイ	㉚(1月号)10P	農本 武 志
"	㉚(4月号)6~7P	"	"	㉛(5月号)10P	農本 武 志
天王寺の歴史をさぐる	㉜(4月号)8~9P	宮下 実	"	㉝(12月号)10P	農本 武 志
"	㉞(11月号)6~7P	"	獣医室から	㉞(2月号)10P	宮下 実
"	㉟(12月号)8~9P	中川 哲 男	"	㊱(4月号)10P	森本 委 利
動物なんでも相談室	㊲(3月号)10P	葭谷 文 彦 榊原 安 昭	"	㊳(10月号)10P	宮下 実
"	㊴(6月号)10P	大野 尊 信			

飼育観察記事

キングペンギン のふ化・成長記録	(2月号)8~9P	仲谷 登	新しいキジ舎での 自然繁殖	(10月号)8~9P	早川 篤
クロサイの繁殖	(3月号)6~7P	野口 秀 高	タスマニアデビル を飼育して	(12月号)6~7P	野口 秀 高
クロオオカミの人工哺育記録	㉚(3月号)8~9P	丸本 守			

動物園紀行・随筆・座談会・その他

オーストラリアの野鳥	(5月号)8~9P	大川 光 雄	キーウィ座談会	(7月号)6~10P	樽本 勲
中国との動物交換(上)	(6月号)6~7P	樽本 勲	かわいい小悪魔“タスマニアデビル”とは	(11月号)8~10P	森本 委 利
"(下)	(9月号)8~10P	"			

動物園日記

P 4・5

1~12月号 森本委利

動物園ニュース

P 11

1~12月号 榊原安昭

動物園ニュース

§ タスマニアデビル来園!!

10月26日夕方、待望のタスマニアデビルが大阪空港に到着しました。このタスマニアデビル4頭(オス2頭、メス2頭)はタスマニア州政府より贈られたもので、頑丈なジュラルミン製の檻に入れられて送られてきました。日本初渡来の動物だけに、その飼育管理にたいへん気をつけています。餌は鶏肉、馬肉を中心に与えています。環境にもなれてきたのか食欲、元気とも良好です。



11月2日、午前10時より、一般公開に先立ち贈呈式が行なわれました。オーストラリア大阪総領事、ジェイムス・ショート氏、今回の来園に多大の御協力いただいた藤井毛織株式会社の藤井恒一社長、本市側から近藤助役、塩谷公園局長らのご出席をいただきました。ショート総領事から「デビル(悪魔)というありがたい名前がついていますが、かわいいところもあります。かわいがって下さい。」と流暢な日本語であいさつがありました。その後一般公開されましたが、意外とかわいい姿に歓声があが



ていました。翌日からの連休には多くの入園者があり、終日人気を集めていました。また、11月2日から11日まで募集したペットネームは、応募総数2,989票の中からオスが「クロベ」、メスが「ミミ」、メスが「スー」に決定しました。決定したペットネームに投票いただいた方々の中から、堺市の山中明日香さん(4才)をはじめ20名の方々に記念品をお贈りしました。

§ アカカンガルーの赤ちゃん確認

毎年、10月から12月にかけてアカカンガルーの赤

.....*.....*.....*.....*.....*

現在の飼育動物数

(1984年10月31日現在)

哺乳類	11目	101種	418点
鳥類	19目	187種	609点
爬虫類	3目	34種	99点
計	33目	322種	1,126点

ちゃんが袋の中にいるのが確認されますが、今年第1号の赤ちゃんが10月23日に確認されました。母親の「コリン」は1978年12月生れで、今回が4回目の出産になります。まもなく、袋から顔を出しているかわいい赤ちゃんをご覧いただくことができるでしょう。

§ ブラックバック2頭出産

動物園の動物の出産は春に集中していますが、なかには季節に関係なく出産する動物もいます。ブラックバックもそのひとつで、10月に入って15日、18日と相次いで赤ちゃんが生まれています。当園のブラックバックの繁殖は順調で、毎年3~4頭が生まれてい



ますが、今年もこれで3月に生まれた1頭を加えて合計3頭が生まれたこととなります。ブラックバック一家は12頭の大家族となりました。

§ モウコガゼル(オス)の死亡

10月26日、モウコガゼルのオスが死亡しました。7月頃から下顎の先端に腫瘍ができ、いろいろ治療をしたのですが、結局その部分からの多量の出血により死亡しました。飼育年数は10年1ヶ月26日でした。1973年北京動物園より来園後、1977年に初めて



の子供が誕生して以来、合計3頭の繁殖に成功するという輝しい記録を残しましたが、1984年9月にはメスが死亡し、今回またオスが死亡してしまいました。残るは当園で繁殖したメス2頭のみになってしまいました。世界の動物園でもほとんど飼育されていない動物だけに非常に残念なことです。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。来年2月までの休園日は下記のとおりです。
12月17日(月)、1月21日(月)、2月18日(月)。
年末年始は、12月29日~1月1日まで休園いたします。開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都市・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修 阪口浩平
指導 宮武頼夫

オールカラー

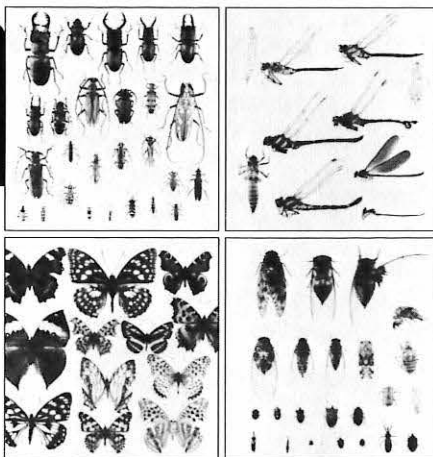
むし

くらしとかいかた

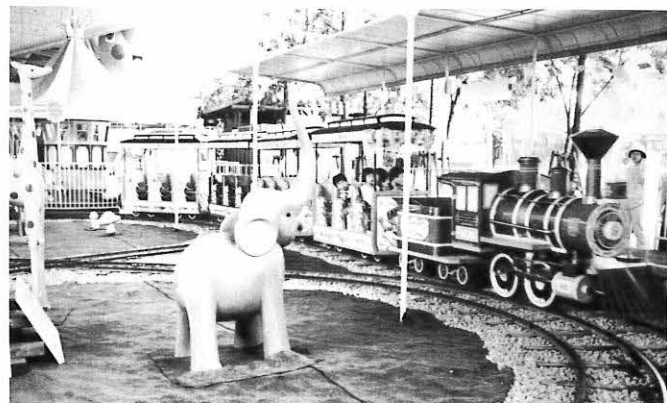
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きつとすばらしいことに出会えるはずだ。

85ページ
84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

かまの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園

ZOO GUIDE の

ご購入をおすすめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集 (絶賛再版)

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著 (天金美装・箱入
B6判・270頁
2500円・〒不要
直接申込乞う)

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の
犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、そ
の誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の
一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

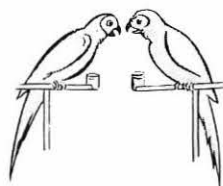
待望の日本狼の正史ついに完成!
〔改訂四版〕

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著
者が、数十年にわたり収集した正確な資
料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古
代より、のちには病狼と恐れられ、やが
て絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

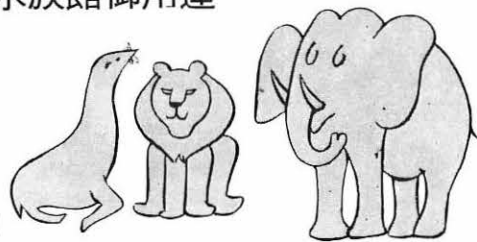
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

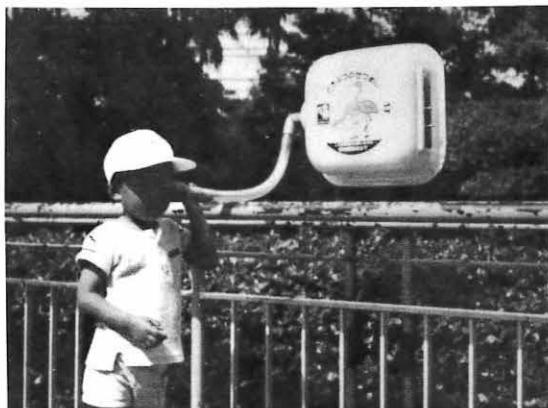
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

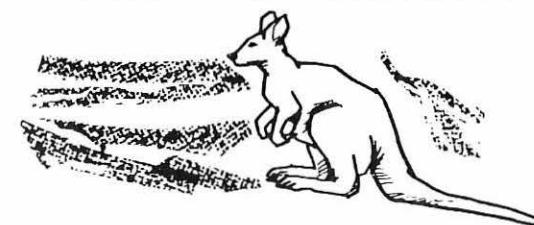
本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

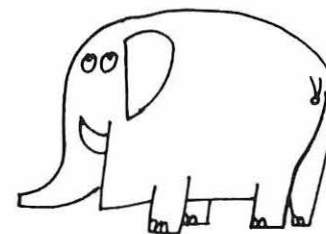


……………ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……………
いらっしゃいませ……………
ごきゅうけいは……………
おしょくじは……………

動物園内北園 中央売店

☎ (06) 771-0973

天王寺動物園内

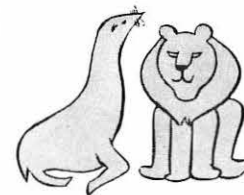


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和59年12月10日発行(毎月1回10日発行)

第20巻 第12号(通巻232号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)

編集委員

土井 良彦	伊東 重朗	小出 雅三	樽本 勲	中川 哲男	前田 豊彦
宮下 実	長瀬健二郎	榑原 安昭	森本 委利	大野 尊信	葭谷 文彦
農本 武志	野口 秀高	仲谷 登	柴田 総	兼坂 雅浩	堀 弘
大川 光雄					